



東青管内の連携状況

1 連携状況の概要

東青管内における学校と地域の連携については、郡部ではP T Aが中心に関わっている事例が多く、市部ではP T Aも含めた地域との幅広い連携の事例が見られます。市部ではP T A以外にも学校支援に関わることでできる人材が多くいること、地域に向けて積極的に情報を発信している学校が多いことに加えて、多数の団体・組織が存在しているからであると考えられます。

2 取組分野での連携状況

(1) 読み聞かせ・図書館支援について

東青管内での読み聞かせ・図書館支援に関する連携状況は、県内での実施率を上回ります。郡部では、県の委託事業である「地域子ども読書活動推進事業」を外ヶ浜町、蓬田村、今別町が行い、読み聞かせボランティアグループの育成を図り、学校支援に力を入れるようになってきています。

(2) 安全パトロール

学校の統合が進んでいる郡部の学校は、スクールバスの利用が多いため、地域での安全パトロールの実施率は低い結果になっています。市部は、学区の広い学校での実施が目立ちます。

(3) 校外・校内環境整備について

内容は敷地内の環境整備が主であり、以前からP T Aが中心になって、校庭の草刈等を行っています。市部では、地域の企業が校庭整備に関わっているところがあります。

(4) 文化活動指導について

伝統芸能を教育活動に取り入れる例は少ないが、昔の遊びクラブ、音楽クラブ、華道クラブなどクラブ活動を中心に支援を受けている例は見られます。

3 今後に向けての課題と振興策

東青管内では、教育活動に支援が必要なときは、学校側が独自に作成している人材バンク等を使って、地域人材を活用する取組が多く見られます。学校支援を希望する地域の方々が学校側に支援の提案をして、学校側がそれを受けて学校支援ボランティアとして受け入れるまでには至っていません。

これからは、子どもの教育を地域全体で担うという機運を醸成し、学校と地域の協働を更に推進していくことが大切です。そのためには、学校の役割、地域の役割を明確にし、学校支援ボランティアについて学校の理解と地域人材の発掘を進める必要があります。

地域の情報が学校に、学校の情報が地域に提供される仕組みづくりや調整役としてのコーディネーターの育成も求められています。





西北管内の連携状況

1 連携状況の概要

西北管内における学校と地域の連携は、環境整備や農作業体験活動、読書活動、登下校時の安全確保などにおいて特に進んだ取組が見られます。支援の形態としては、ゲストティーチャーが比較的多く、地域の方々が総合的な学習の時間や生活科の授業に入る事例が多く見られます。要因としては、実践されている取組がマスコミ等によって効果的に報道されたことがあげられます。

2 取組分野での連携状況

(1) 読み聞かせ・図書館支援について

読み聞かせは、管内の7割以上の小学校で実施されています。自主的にできたグループやPTAを母体としたグループなど、様々な団体・グループが学校と連携することによって、子どもの読書活動推進に向けて大きな成果をあげています。読み聞かせ活動をきっかけとして、その後、学校支援ボランティア活動に積極的に関わる人材が生まれていることから、今後さらに読み聞かせに関わる活動の推進が期待されます。

(2) 安全パトロールについて

学区内の安全パトロールや登下校の安全指導に保護者や地域の方が関わりをもっている学校が、全体の6割以上を占めています。五所川原市立長橋小学校では、地域の主体的な組織として「子ども見守り隊」が結成され、活動を続けています。

(3) 校外・校内環境整備について

グラウンドや学校周辺の整備については、管内小中学校の6割以上で地域との連携がされています。塗装などの専門的な分野においては、学校支援地域本部事業を活用して、専門家が指導する講習会を開催し、ボランティア養成に取り組む市町も増えてきました。

3 今後に向けての課題と振興策

西北管内では、退職教職員ボランティアへの要望を聞いたアンケートで、「LD、ADHDなど特別な配慮を必要とする児童生徒の指導または指導支援」をあげている学校が、全体の6割以上にのぼっていますが、実際の取組は現在のところ4校しかありません。要望がありながら実施されていないのは、個人情報・守秘義務に関することが障害になっているからと考えられます。今後は、学校の需要が高いものや、逆に地域のボランティアがやりたい活動に対して、地域と学校がどのように連携していくのかが課題になると思われます。学校と地域の双方からアイデアを出し合いながら、連携がうまくできる実践例を数多く生み出すことが重要です。

また、学校支援に関して、実際に協力している地域の人の中に、PTA会員が多く含まれています。環境サポーターや施設メンテナーに関しては、そのほとんどがPTAによる奉仕活動です。PTAからさらに地域へという広がりを持たせることが今後の課題です。そのためには、学校や子どもと関わることの楽しさを多くの人に味わってもらえるような仕掛けが必要であり、学校と地域を結ぶコーディネーターの働きに大きな期待が寄せられているところです。





中南管内の連携状況

1 連携状況の概要

中南管内における学校と地域の連携においては、読み聞かせ・安全パトロール・環境整備・スポーツ活動及び文化活動等に関する連携が比較的進んでいますが、地域の実態や学校並びに地域の意識等による差異も見られます。取組の盛んな学校においては、教育課程に多様な体験学習を取り入れるなど、全校体制で気運を盛り上げてきたことがあげられます。

2 取組分野での主な連携状況

(1) 読み聞かせ・図書館支援について

読み聞かせは、同一グループが複数校に入るなどして中南管内小学校の7割で行われています。管内全市町村で構成されている「津軽地区読書活動推進協議会」は、講習会や絵本づくりなどを企画しネットワークを構築しています。PTAへの働きかけで結成したグループもあります。

(2) 安全パトロールについて

小沢小・東小・城西小をはじめ子どもたちの安全・安心を守る取組は4割の学校で積極的に行われています。「地域ぐるみで子どもの安全を」を標榜する小沢小では「サポートチーム」が結成され、登録者は100名にのぼっています。情報交換の場は学校が提供し、具体的な取組はサポートチームが主体となって実施しています。

(3) 校外・校内環境整備について

弘前市・平川市・田舎館村をはじめ3割の学校で行われています。親父の会や婦人会や老人クラブ、歩道除雪の会、生け花ボランティア、地域の溶接工や重機所有の方の協力を得るなどした校庭整地・物品修理・遊具のペンキ塗等を行っており、内容によってはPTA活動よりも機動的といえるようです。

(4) 文化活動指導について

文化活動では藤崎町や田舎館村、黒石市をはじめ2割の学校が支援を得ています。特に伝統芸能などを教育活動に活かした取組が盛んであり、学校独自の活動として教育課程等に取り入れられており、地域住民も楽しみにしています。

3 今後に向けての課題と振興策

中南管内での学校と地域の協働による教育活動は、これまでも各学校を中心に様々な分野で取り組まれてきました。今後、管内での活動を一層活発にするために「地域が学校を支える」という視点でとらえなおし、社会教育と学校教育がさらに連携を深めることが重要となります。社会教育においては市町村教育委員会を中心にボランティアに係る情報収集、交換、提供の場づくりや研修体制づくりを進めること、また、学校教育においては「活用から協働へ」の意識のもと、校内にボランティアルームなど、活動の拠点となる場所をつくり、学校とボランティアとのコミュニケーションを深めるなどの取組が求められます。

この取組をより効果的に展開していくために、コーディネーターを養成することが必要とされています。





上北管内の連携状況

1 連携状況の概要

上北管内における学校と地域の連携については、小学校と中学校の間に取組件数及び取組内容に違いが見られます。小学校の方が盛んである理由は、学校のニーズの違い、ボランティア側の支援内容の難易度などが関係すると考えられます。読み聞かせ活動は、図書館や行政の協力を得て半数以上の小学校で実施されています。

2 取組分野での連携状況

(1) 読み聞かせ・図書支援について

上北管内では、小・中学校でのボランティアの受け入れ率が高く、小学校では7割近くになっています。特に、七戸町と横浜町では全ての小学校で、十和田市では21校中10校で実施されています。市販の本を読み聞かせるだけでなく、自主製作した大型絵本を使ったり、効果音や音楽を付けたり、本をもとにして簡単な人形を作ったりして効果的に行っています。

(2) 学習支援分野について

ドリル学習時の丸つけボランティア活動が、伝法寺小や北園小で継続的に行われています。また、北園小と城南小では、ミシンの指導や縫い物の指導を保護者が手伝っています。三沢小、南小、北園小などでは、生活科の町探検など校外学習のときに、保護者の協力を得て活動しています。

保護者、地域の方以外のボランティアとしては、県立七戸高校2年生が夏休みに七戸中、城南小のドリル学習の補助を行っている例があります。

(3) 校外・校内環境整備について

上北管内の小学校では、子どもの手で実施できない校舎外の環境整備に、保護者や地域の人が協力しており、十和田市ではほぼ3割の小学校で実施されています。中学校では、十和田中、切田中、七戸中などにおいて、主に遊具や校舎・校庭などの整備が行われています。

(4) 安全パトロールについて

上北管内の小・中学校で、子どもたちの安全・安心を守る取組は3割ほどです。野辺地町では全ての小学校で実施されており、子ども会や地域の健全育成会の協力もあり、登下校時の安全確保に力を注いでいます。十和田市では、地区コミュニティ推進協議会青少年育成部会を中心とした「防犯パトロール隊」が結成されています。

3 今後に向けての課題と振興策

十和田市の図書館ボランティア活動は、最初1つの学校で始まり、その後、この活動のすばらしさが市内各校に伝わり、広がりを見せました。また、北園小、伝法寺小、城南小での各教科における学習支援ボランティア活動は、教職員・子ども・ボランティアの3者にプラスになることが認められ、継続的に実施されています。

このことから、学校支援ボランティア活動を推進するには、その有用性を学校が認識し、教育活動に位置づけることが大切です。そのためには、行政側が地域や学校に多くの情報を提供し、支援することと、地域と学校をつなぐコーディネーターを育成することが必要となります。





下北管内の連携状況

1 連携状況の概要

下北のPTAや地域の方々は、安全パトロールや環境整備などは当たり前のこととして捉えており、風土的に学校が非常に大事にされています。このため、下北管内では、特段意識することなく「学校と地域の協働による教育活動」が行われてきました。

しかし、時代の変化や児童生徒の減少などにより学校の統廃合が進み、学区が広域に変化するにしたがって、学校と地域の連携のあり方や内容について見直し、再構築していくべき大きな転換期を迎えています。

2 取組分野での主な連携状況

(1) 読み聞かせ・図書館支援について

下北管内各市町村に読み聞かせに対応して下さる団体や個人の方がおり、ボランティアによる読み聞かせの基盤は十分にあります。しかし、管内の学校からの読み聞かせの要望・要請はあまり多くない現状にあります。

むつ市立城ヶ沢小学校においては、ボランティアによる朝の読み聞かせ、図書の貸し出し・整理が行われています。また、むつ市立二枚橋小学校でも、放課後を中心に読み聞かせ、紙芝居などがボランティアの方々によって行われています。

(2) 安全パトロールについて

下北管内のほとんどの学校で、子どもたちの安全・安心な登下校のために、町内会、交通安全母の会、声かけリーダー、防犯婦人隊、地域子ども安全委員会、PTAが時宜をとらえ、学校と協力・連携して見守り、安全指導を行っています。

また、地域の祭典時、関係の団体が学校と連携して、巡回指導を行っています。

(3) 校外・校内環境整備について

管内のほとんどの学校では、学校行事や年度の節目にPTAや地区の諸団体の方々から校内外の環境整備の支援を受けています。(グラウンドの草刈り・草取り、グラウンド整備、ワックスがけ、樹木の剪定、校舎の補修、花壇整備、通学路の点検、除雪など)

(4) 文化活動指導、ゲストティチャーについて

下北は、伝統(郷土)芸能が盛んな土地柄で、学芸会などの教育活動に取り入れている学校があり、地域の方に手習い等の対応をいただいています。

このほかに、総合的な学習の時間、茶道、学校田・畑、俳句、昔の体験などの活動にゲストティチャーとして地域の方の支援をお願いしている学校が多くあります。

(5) 学習支援分野について

算数ドリルの丸つけ、漢字ドリルの丸つけをはじめとし、習字、家庭科など実習補助、特別支援教育の補助、校外学習の引率補助、耐久遠足・スキー教室時の安全確保・指導補助など、幅広い取組がみられるようになってきました。

3 今後に向けての課題と振興策

学校では、ボランティアなどの人材情報がつかみにくく、実際をお願いするにあたって連絡や調整などで面倒を感じるが多々あります。この課題を解決するためには、学校とボランティアの架け橋となるコーディネーターの育成が必要であり、学校の窓口教員の協力も欠かせません。

学校として必要な事柄を積極的に外部へ発信すること、地域が発する信号を受信することも大事になってきます。これらの人材を中心とし、学校の情報が地域に、地域の情報が学校に提供される仕組みづくりが求められます。





三八管内の連携状況

1 連携状況の概要

三八管内では、八戸市と南部町を中心に学校と地域との連携が進んでいます。八戸市では、総合的な学習の時間の実施に伴って地域との連携が進んだ学校が多く見られますが、社会教育施策としての“教育ボランティアセンター”と、学校教育施策による“地域密着型の学校づくり”が推進の大きな力としてあげられます。また、南部町では“学校と地域ネット推進事業”という学校と地域とを結ぶ調整システムが10年以上前から発足し運用されてきたという背景があります。

他の町村においても、PTAを中心にした学校支援活動や、婦人会や老人クラブの方々と連携をとっている例など様々な特色が見られます。

2 取組分野での主な連携状況

(1) 読み聞かせ・図書室支援について

読み聞かせ活動は、三八管内小学校の約半数の学校で行われています。特に階上町では地域の読み聞かせグループとの連携を深め、全小学校で行われています。図書室支援活動は約1割の小学校で実施されているほか、市内4校の中学校でも継続的に行われています。

(2) 安全パトロールについて

子どもたちの安全・安心を守る取組として、どの市町村も3割程度の学校で実施されています。中学校でも2割5分の学校で実施されていることから、小学校を含む中学校区という視点では多くの児童生徒がボランティアの方々に見守られているものと思われれます。

(3) 校外・校内環境整備について

三八管内では2割の小学校、1割5分の中学校で実施されています。地域の多くの方々からの協力を得て、歩道の除雪、庭木剪定、生け花ボランティア、遊具のペンキ塗、グラウンド整備等が行われています。

(4) 文化活動指導について

三八管内約2割の学校が支援を得ています。伝統芸能の指導をはじめ、茶道・大正琴・書道・菊花栽培など、クラブ活動を中心に取り組んでいる状況が多く見られます。さらにそれが、地域の発表会や展覧会への参加にもつながっています。

3 今後に向けての課題と振興策

学校支援ボランティア活動の事業効果や内容・方法について、学校教職員と地域の方々に一層浸透させる必要があります。そのため、学校教員対象の研修会・会議等での説明やマスコミを使った事業のPRが求められます。一方、学校支援ボランティアの方々に対しては、新学習指導要領移行期にある学校の教育活動や児童の理解を進めるための研修などが必要となっています。さらに、学校支援ボランティアとしての活動が期待できるシニア世代の多くの方々の参加を得るため、高齢者福祉部局や社会福祉協議会との連携を一層進める必要があります。

